

2. 趣旨

- 今回検討する赤水の「蝦夷之図」は、天明5～天明6(1785～86)の蝦夷見分の資料^(注)に基づくもので昭和42年に調査され書籍⁽³⁾にて報告されていたが長らく所在不明で制作年代が特定されておらず、赤水生誕300年記念の年に数十年ぶりに所在が分かったのを機会に長久保赤水顕彰会として調査すべきものと考え実施した。
- 今回の調査に合わせて、赤水による刊行図である「蝦夷松前図」についても調査した。

(注) 田沼意次の命で行われた蝦夷見分の報告書である「蝦夷拾遺」: 普請役山口鉄五郎、庵原彌六、皆川沖右衛門、青島俊蔵、佐藤玄六郎による報告書で、組頭金沢安太郎を介して松本伊豆守に報告するも受け取り拒否に遭い市中に埋もれてしまう。なお、「蝦夷拾遺」には佐藤玄六郎と記載があるが、「蝦夷之図」、「蝦夷地図」、「蝦夷輿地全図」には佐藤源六郎と記載されている。蝦夷拾遺を纏めた本人が佐藤玄六郎と書いているのでそれに従って佐藤玄六郎と記載する。

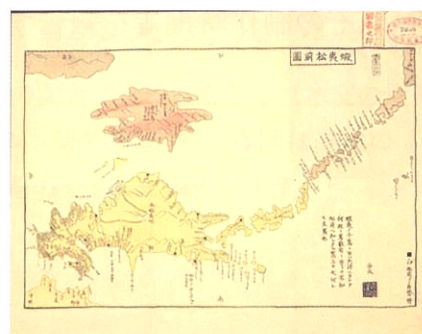
(3) 長久保光明著「地図史通論」晁印書館、平成4年、453～467頁。長久保片雲著「長久保赤水伝」晁印書館、昭和53年、288～300頁。これらの書籍には概略的制作年代が記されているが、今回の調査で再検討した。

3. 調査対象

- 調査対象の手書きの「蝦夷之図」⁽⁴⁾と刊行図の「蝦夷松前図」⁽⁵⁾を以下に示す。
- 双方とも田沼意次の命による天明5, 6年(1785～1786)の蝦夷見分情報でありながら地形がかなり違う事が分かる。



(4) 北茨城の方所蔵の「蝦夷之図」。
145.3×172.4cm



(5) 北海道大学所蔵の「蝦夷松前図」
35×44cm
(明治大学蘆田文庫の模写図)